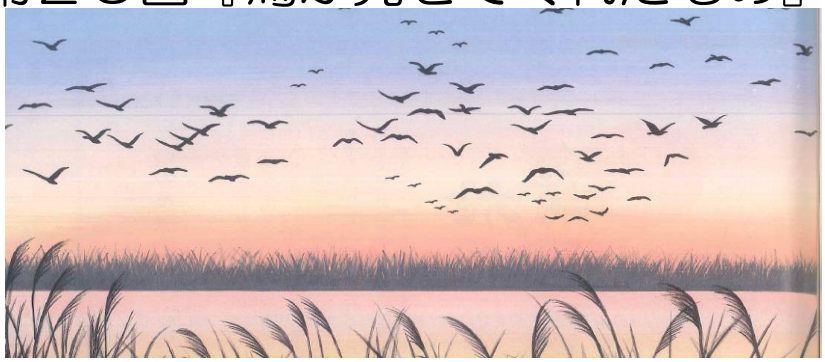
１年道徳通信　第23号

第２３回『鳥が見せてくれたもの』



第２３回目の道徳では、野鳥を保護する活動を行う「私」の物語を通して、自然を守るためにできることについて考えました。砂浜でクラスメートの奈々実がごみ拾いをしていました。落ちている釣り糸が鳥に絡まったり、鳥がごみを誤飲したりすることのないようにごみ拾いをしているというのです。そのとき、「私」は釣り糸が絡まった鳥を見つけます。他にも釣り糸が落ちているのを見て胸が熱くなった「私」は、翌日から、ごみ拾いに参加します。そして１か月後、奈々実が「秘密の場所」に連れていってくれました。そこで、数千羽のマガンが一斉に飛び立っていくのを見た「私」。地球にはこんなにたくさんの鳥たちが生きていると実感した「私」の中で、何かが変わっていました。

みんなの意見

「私」は奈々実のどんな気持ちがわかったのだろう。

- 鳥のためを思ってゴミ拾いをしている気持ち。毎朝早く起きて、海辺に来ていたのは、鳥が本当に好きだという気持ち。
- 命の大切さと自然の大切さ。一つの命を救えるという気持ち。

今日の授業で学んだことや考えたこと。

- 生物の命を守ることの大切さを改めて感じた。そして、人間に害を与えるからという理由で、簡単にその動物の命を奪ってはいけないということを学んだ。
- 人間の行動で命を救うことも、命を消してしまうことも、簡単にできてしまうのだなと改めて思いました。
- 自分達は人間のことしか考えていないけど、他の生き物にも目を向けていかなければならないと思った。

自然と共に生きていく方法を見つけていくことが大切ではないだろうか。